よこごしまち歩き ガイドマップ

①田村家高野槇

世界三大造園木の一つで、名前は高野山（和歌山県）に多く生えていることに由来しています。高さ約20mで、樹齢は約400年です。1625年（寛永2）に田村少右衛門が新発田藩領藤山村名主役に着任したときに植えられたと伝えられています。

竹林

藤山・駒込地区の砂丘は主に竹林となっています。春には竹の子、冬には雪景色が綺麗です。

②法幢寺

1589年（天正17）に開かれました。行基が作ったといわれる酒呑地蔵が奉られています。「酒呑地蔵」の由来は、毎晩お金を払わずに酒を買いにくる小僧に腹を立てた酒屋の主人がナタを投げ、血を流して逃げた跡を辿ると、法幢寺の地蔵の前で消えていたという言い伝えがあります。

毎年春分の日に年に1度の御開帳が行われるグラ！

③小杉八幡宮

移転を繰り返して1697年（元禄10）に現在地に建てられたといわれています。1882年（明治15）に阿賀野川から引き上げられた当時の大ケヤキの一部で作られた扁額が百年以上経た現在も掲げられています。

社殿の横には、昭和58年に水面下4mから掘り出された、ケヤキの切り株もまつられているグラ！御神木として大切にされてるグラ！

④松韻寺

1204年（元久1）に開かれました。「親鸞聖人袈裟掛けの松」と呼ばれている、樹齢約800年、枝葉10m四方、幹周り2.9mの赤松があり、越後七不思議の逆さ竹（西方寺・中央区）、八つ房の梅（梅護寺・阿賀野市）とともに松竹梅の旧跡とも称されています。

⑤横雲橋

初代横雲橋は1875年（明治8）に完成した木橋で、当時の新潟県令の樺本正施が「大河に雲がたなびくような長い橋」と形容したことから「横雲橋」と命名されました。大河に橋が架けられるようになったのは当時大変珍しく、見物客で賑わいました。その後たびたび洪水に見舞われ、橋が流出するなどの被害がありました。現在の橋梁は5代目で1964年（昭和39）に架け替えられたものです。

横越出張所に「横雲橋」の額があるグラ！

横雲橋の額

⑥京都醍醐寺旅僧の休み処

初代横雲橋ができる前は、対岸と往来する船着場がありました。その近くには休み処もあり、460年ほど前に京都醍醐寺の旅僧が立ち寄っています。この旅僧の費用帳によると、1564年（永禄7）に五泉市・馬下の宿からの送り衆に酒を振る舞い、「三十文・宿ヨリ送衆・サケ・コココシニテ」と記されています。

⑦焼山の蝸牛様

江戸時代、沢海藩の家老になった佐川は、四代目藩主を酒におぼれさせ庶民に重税を課すなど政治が乱れました。危機感を覚えた藩士たちは佐川を処刑しましたが、その際に「我が亡魂は幾千万の蝸牛となって領内の作物を食い尽くし、末代まで祟ってやる」と言い残して切腹しました。翌年から無数の蝸牛が田畑を荒らしたため、人々は怨霊を鎮めるため小さな祠を建てました。

⑧B29墜落地

1945年（昭和20）7月20日未明、B29米軍爆撃機5機が新潟に飛来し、そのうち1機が砲弾を受け、横越上空を通過した後、畑に墜落しました。大勢の見物人が押しかけ、住民への被害はありませんでしたが、大きな騒ぎとなりました。

⑨七面堂

1838年（天保9）にツツガムシ除けのために現在地から南西約100mの七面島（堤外地）に建てられました。洪水による流出や阿賀野川の改修に伴い1919年（大正8）に現在地に移転しました。

⑩光圓寺

この場所は、沢海藩断絶（1687年）後に、出雲崎代官所の出張陣屋（沢海代官所）、その後旗本の知行所が置かれました。光圓寺は1629年（寛永6）に村上市から沢海に移り、1869年（明治2）に現在地に移りました。沢海藩時代の籠が保管されていて、見学も可能です。

⑪大榮寺

1631年（寛永8）、三つの寺を統合し、建てられました。多くの名僧を輩出した曹洞宗選仏（坐禅）の大道場でした。境内には、沢海城主である溝口家のお墓や芭蕉の句碑があります。春には門前や境内に桜が美しく咲く名所として知られています。

⑫光明院

行基（奈良時代の僧、布教のため諸国を行脚）の作と伝えられる薬師如来像が安置されており、目の病を治すということでよく知られています。毎年7月28日に境内で火祭りが行われます。火渡り修行として伝統のある祭りで、下火になった薪を敷き広げ、裸足になった修行僧が渡り終わると、一般の人たちが無病息災、家内安全などを祈りながら渡ります。

鳥の院「御手洗の池」は薬師如来像が出現されたと伝えられる池で、池の真ん中には全国的にも珍しい三柱鳥居がたってるグラ！昔、目の病気の人は「御手洗の池」の池水で目を洗うと治ると言われてたグラ。

三柱鳥居

⑬賀茂神社の大ケヤキ

賀茂神社には、集落の神木として保護され県の天然記念物に指定された一本の大ケヤキがあります。樹齢は推定700年以上で、幹の根回りは10mです。樹高はもともと25mでしたが、用水路改修に伴い樹勢が衰えて、昭和56年に幹上部が切断され樹高11mとなりました。また、毎年行われる秋祭りの際には掻後（サンバイシ）神楽が奉納されています。

わしの生まれた神社だグラ！

⑭小阿賀野川河川公園（渡し場広場）

この場所は、小阿賀野川と能代川の合流地点に近く、かつて舟の渡し場があり、水運交通の要でした。1878年（明治11）英国の旅行家イザベラ・バードが津川から阿賀野川を舟で下り、新潟市まで移動する道中、小阿賀野川沿いの木津付近を通り、舟から眺めた集落の様子を旅行記に紹介しています。

⑮妙泰寺

1642年（寛永19）に開かれました。4月中旬には胞姫神（えなひめさま）祭が開催されます。胞姫神は安産と子育ての神さまとして信仰され、妊娠した女性など地区内外から多くの人が訪れます。

⑯小・林存の「ソクラテス」の歌碑

旧横越村出身の新聞記者・民俗学者で、多くの郷土誌を刊行するなど、大きな業績を残しました。また、句や歌に親しみ、その人柄から多くの人々から敬愛されています。「われこそは街の酒場のソクラテス　君與へんか毒杯も赤」の歌は1953年（昭和28）頃の作品といわれています。

存は、蒲原横越組の大庄屋の家系なんだグラ。1913年の木津切れを取材した「水害見聞記」が、当時の新聞に連載されたグラ！

曽我墓所遺跡

2020年に発掘された曽我墓所遺跡からは、奈良時代後期（8世紀半ば～）の土器とともに全国で初となる鳥の水かきを模した足が3本ついた環状瓶（環状の水瓶）も出土しています。

環状の水瓶

えんでばよこごし

コミュニティカフェで、まちの情報ステーション、集いの場、商いの応援など、町と人、人と社会をつなぐ交流の場となっています。

木津切れの跡碑

1913年（大正2）に発生した木津切れの記念碑です。賀茂神社から下流へ240mあまりの幅で堤防が切れ、付近の集落では家が20軒ほど流され、死者もでたほか、米の収穫にも大きな被害が生じました。

新潟市広域MAP

わしは毎年秋祭りが終わるとこの小阿賀橋から流されるグラ！

坐禅で自分を見つめ直す体験もできるグラ！

1687年に沢海藩が断絶された理由がわかったグラ…！

昔、ここにお城があったんだグラ！

B29墜落地点